

” Elektromobilitaet: Angebot trifft Nachfrage  
(E モビリティ：需要と供給の一致) ” 取材報告書

APEV ドイツ ベルリンデスク  
シュリットデイトリッヒ桃子

## 1. イベント概要

イベント名：” Elektromobilitaet: Angebot trifft Nachfrage (E モビリティ：需要と供給の一致) ”

日時：2014年6月3日 13時～19時（展示会13-15時および17-19時、講演会：15-17時\*）

場所：ドイツ デュッセルドルフ Henkel 社

主催：Landeshauptstadt Duesseldorf（デュッセルドルフ市），Industrie- und Handelskammer zu Duesseldorf（デュッセルドルフ商工会議所），Stadtwerke Duesseldorf（デュッセルドルフのエネルギー会社）

\*時間の都合上、今回は展示会のみ参加

## 2. 概要

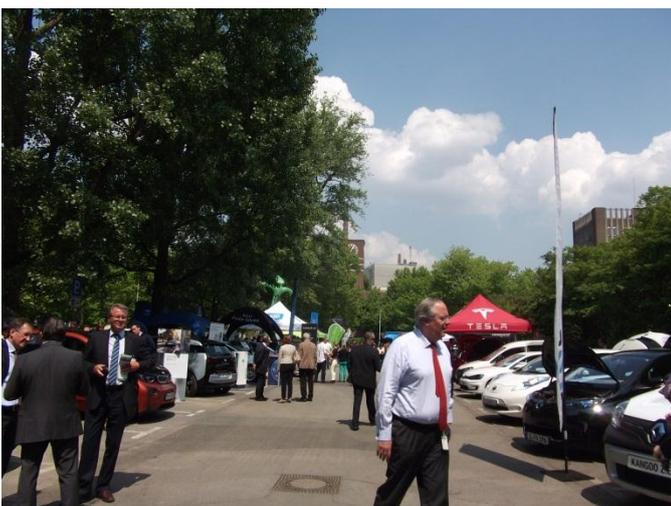
会場は屋外と屋内に分けられており、屋外展示は BASF、ヘンケル社といった化学会社のあるリサーチセンターの中の広大な敷地内駐車場で行われた。その一ブロックに主要メーカーの電気自動車、電気トラック、電気自転車、電気自動車レンタカー会社、充電器メーカーがブースを設け、展示・試乗会を行っていた。その様子はさながら小規模なモーターショーといったところ。また、官民が協力してインフラ整備にも注力しているようで、特に充電器の展示が目立った。

屋内では自動車会社以外の会社もブースを構え、公開インタビューを行っていたが、特に Schneider Elektrik 社という充電器会社と、BMW の子会社である Alphabet 社が EV のコンサルタント会社として注目を集めていた。

## 3. 屋外展示

屋外 EV 展示については、おなじみの BMW、メルセデス、VW といったドイツ主要メーカーに加え、テスラ、日産、三菱などが試乗会を繰り広げていたが、今回、特に人々が関心を寄せていたのは、EV トラックおよび消防車 (Twizzy) である。

屋外会場の様子



## 12トンEVトラック



## Twizy 消防車



この12トンEVトラックはTEDIという1ユーロショップ（ドイツの100円ショップ）が商品の運送に使用しているもので、ドイツ初の試みらしい。車体はオランダEmoss社製で、160kWhの電池充電時間は4.5時間で、走行距離は200km。社内のCRS活動の一環としてこのEVトラックを導入したとのことだが、費用が通常のディーゼルトラックの3-4倍かかるため、現時点ではトライアル中だそう。一番の問題はやはりバッテリーで、5年間の保証期間中、問題なく使用できるかどうかは今後のさらなるEVトラック導入へのキーになるとのこと。バッテリーに問題がなければ、EVトラックの方が総じてコストダウンでき、7年程で収支がプラスに転じるので今は様子を見ている段階である。実際に目の前で走行してもらったが、非常に静かで滑らかな走りであることに驚いた。デュッセルドルフ近郊のドルトモント市内にて運送しているが、運送距離は一日約80kmなので走行距離の問題はなく、また、トラック特有の騒音や排気ガスが発生しないので顧客にも評判は上々とのことだった。

消防車の方は消火器や酸素マスク、消防服やマスクなどを迅速に運ぶ役割を果たしており、ガソリン消費が生じないことは勿論、駐車スペースが小さくて済むことや小回りがきくことから導入された模様。

また、今回は充電器の展示も目立った。Stadtwerke Duesseldorf（デュッセルドルフのエネジー会社）のスタッフによると「デュッセルドルフ周辺では、EVの普及に向け、市民への周知活動およびインフラ整備に注力している」とのことだった。

## 様々な充電器



#### 4. 屋内展示

屋内展示はヘンケル社のビル内にて行われ、主にEV周辺ビジネス（カーシェアリング、充電器メーカー、エネルギー会社、自動車整備会社など）のブース展示とともに、公開インタビューおよびプレゼンテーションが行われていた。その中でも特にSchneider Elektrik社は高速チャージャーを含む同社製充電器をオフィスビルやマンション、店舗駐車場などに積極的な設置によることによるEVのインフラ整備を強調していた。また、BMWの子会社であるAlphabet社はEVのコンサルティング会社として、EV使用の有効性や効率性を企業に提案していくことをアピールしていた。

Schneider Elektrik 社によるプレゼン



Alphabet 社への公開インタビュー



#### 5. 総見

屋外でのEV車の展示・試乗会はヘンケル社や他の社員と思われる一般人も多く参加しており、広大なリサーチパークにおける展示のEV普及の有効性を示していた。また、主催者が示すとおり、自治体と民間企業が一体となって、デュッセルドルフおよび周辺地域のEVを推進している印象を受けた。そのためのインフラ整備として充電器メーカーなどを前面に展示していたのだと考えられる。さらに、EV関連の新しいビジネスとしてBMWの子会社がコンサルティング会社を設立していたのも興味深かった。今後のEV普及において、EVおよびEV用電池など関連部品の開発は言うまでもなく不可欠であるが、同時にユーザーが安心してEV走行できるような環境を整備したり、周辺ビジネスを推進することも、益々重要になることが予想されたイベントであった。

以上